

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2005-503164(P2005-503164A)

【公表日】平成17年2月3日(2005.2.3)

【年通号数】公開・登録公報2005-005

【出願番号】特願2003-529980(P2003-529980)

【国際特許分類第7版】

C 1 2 Q 1/04

G 0 1 N 33/569

【F I】

C 1 2 Q 1/04

G 0 1 N 33/569 B

【手続補正書】

【提出日】平成17年5月11日(2005.5.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

標的細菌が細胞溶解性抗生物質に耐性を示し、以下の一連のステップ、

i) 細胞溶解性抗生物質を含むインキュベーション培地で試料をインキュベートするステップ、

ii) 捕捉剤を含む固相支持体上に標的細菌の不溶解細胞を捕捉するステップ、

iii) 標的細菌の不溶解細胞の溶解を引き起こすことができる薬剤に該細胞を曝露するステップ、および

iv) 標的細菌の溶解細胞に由来する細胞内物質の存在を判定するステップを含む、試料中の標的細菌の存在を判定する方法。

【請求項2】

ステップi ii)の前に洗浄ステップおよび/またはろ過ステップがある請求項1に記載の方法。

【請求項3】

捕捉剤が黄色ブドウ球菌に特異的な抗体である請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

捕捉剤がフィブリノーゲンである請求項1または2に記載の方法。

【請求項5】

細胞溶解を引き起こすことができる薬剤が黄色ブドウ球菌に対して選択的である請求項4に記載の方法。

【請求項6】

細胞溶解を引き起こすことができる薬剤がリゾスタフィンである請求項5に記載の方法。

【請求項7】

細胞溶解を引き起こすことができる薬剤がバクテリオファージである請求項1から4のいずれか一項に記載の方法。

【請求項8】

培地が液体プロスである請求項1から7のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 9】

固相支持体が磁気ビーズを含む請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 10】

ステップ i v) が生物発光検定を含む請求項 2 から 9 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 11】

生物発光検定がアデニル酸キナーゼに基づく請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

ステップ i v) が細胞内酵素マーカーに基づく比色検定または蛍光検定を含む請求項 2 から 9 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 13】

細胞溶解性抗生物質がメチシリンである請求項 1 から 12 のいずれか一項に記載の方法

。

【請求項 14】

細胞溶解性抗生物質を含む培地、標的細菌に特異的な捕捉剤を含む 1 種または複数種の固相支持体、標的細菌の細胞溶解を引き起こすことができる 1 種または複数種の薬剤、および標的細菌の溶解細胞に由来する細胞内物質の存在を判定するための試薬を備える、細胞溶解性抗生物質に耐性を示す標的細菌の試料中の存在を判定するための試験キット。

【請求項 15】

細胞溶解性抗生物質がメチシリンである請求項 14 に記載の試験キット。

【請求項 16】

1 種または複数種の捕捉剤が黄色ブドウ球菌に特異的な捕捉剤を含む請求項 14 または 15 に記載の試験キット。

【請求項 17】

1 種または複数種の捕捉剤がフィブリノーゲンを含む請求項 14 から 16 のいずれか一項に記載の試験キット。

【請求項 18】

1 種または複数種の細胞溶解剤がリゾスタфинを含む請求項 14 から 17 のいずれか一項に記載の試験キット。

【請求項 19】

標的細菌の溶解細胞に由来する細胞内物質の存在を判定するための試薬が、細胞内酵素マーカーについての生物発光、比色検定、または蛍光検定に適当である請求項 14 から 18 のいずれか一項に記載の試験キット。

【請求項 20】

サンプル中における細胞溶解性抗生物質に抵抗性の標的細菌の存在を判定するため、および請求項 1 から 13 のいずれかに記載の方法を実施するための請求項 14 から 19 のいずれかに記載の試験キットの使用。